

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 睦合東中学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 重久 昭彦

学校教育目標	学校経営の方針
自立 … 安心・安全な環境の中で、学ぶ意欲、豊かな感性、たくましい心と体を身に付けた生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心・安全な環境 ⇒ 安心・安全に学校生活を送るための物的・心的環境の整備をする ○ 学ぶ意欲 ⇒ 「確かな学力」を身につけることができる学ぶ意欲を育む ○ 豊かな感性 ⇒ 自他を尊重し、多様性をもつ他者と協働しながら、新たな価値を創造できる豊かな感性を磨く ○ たくましい心と体 ⇒ 困難に打ち勝ち、最後までやり抜く強い心とそれを支える健やかな体を育む

今年度の重点目標

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 安心・安全な環境づくりの充実 2 学ぶ意欲を育むための指導方法の工夫・改善 3 人権感覚を磨く指導の徹底 4 豊かな心の育成 5 最後まで粘り強く取り組む指導・支援の充実 6 生徒指導・支援の徹底 | <ol style="list-style-type: none"> 7 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育の推進 8 ICTを活用した新しい学び方の創造 9 地域との連携 10 ホームページの充実 11 コロナ感染状況下における学校教育の推進 |
|---|--|

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
わかる・できる授業、主体的に取り組める授業の工夫	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に則した授業・評価についての研修 ・タブレット端末や電子黒板の活用 ・生徒授業アンケートの実施 ・数学・英語の少人数授業、学力SU支援員による個別支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に則した授業・評価について、各教科で実践し、学期ごとの振り返りを改善につなげていくことができた。 ・タブレット端末、電子黒板等の活用は、授業の中で効果的に使っていくには、綿密に授業計画を立てる必要がある。活用状況は、担当により差はあるものの、活用方法を少しずつ共有する機会は少しずつ持っている。 ・年2回の授業アンケートを、それぞれが授業改善につなげることができた。 ・少人数授業、支援員による個別支援で、授業内での「わかった」「できた」は実感させることができるものの基礎学力の定着には時間がかかりそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価についての研修は、引き続き行っていく。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価については研修を重ねていく必要がある。また、授業アンケートも継続していく。 ・少人数授業では、クラス分けなど十分に検討し、より効果的に従業が進められるようにしていきたい。 ・基礎学力の定着に欠かせない家庭学習の習慣づけを、教科での指導はもちろんのこと、保護者への啓発も機会あるごとに行っていく。
学級の集団活動を通した、生徒が所属感を持てるような学級経営	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルアッププログラムの継続的な実施 ・朝・帰りの会の充実 ・学級担任による生活ノートの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルアッププログラムについては、短時間でできるものを月1回、年間を通して実施した。 ・学級経営に関しては、経験の浅い先生方もポイントをおさえて指導ができるように職員会議等で確認をしながら進めることができた。 ・生活ノートの確認は、生徒指導・支援において大きな意義があり、担任の負担も考慮しながら継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルアッププログラムについては、今年度の形は続けつつ、学活の1単位時間を使った指導も増やしていく。 ・学級経営は、職員会議でミニ研修のような形で資料提示をしたりアイデアを出し合ったりしながら研修を重ねていく。

リーダーの育成や生徒の主体性を引き出すような活動の工夫	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実行委員会を中心とした行事運営 ・生徒会本部、中央委員会を核とした生徒会活動 ・生徒を主体としたISS活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会は、コロナ禍前に近い形で、縦割活動や全校・学年練習を活発に行うことができた。 ・3年ぶりの文化発表会では、学級の合唱練習も生徒のリーダー中心に行うことができた。 ・生徒会活動では、特に中央委員会で建設的な意見が多く出され、新たな取り組みなども始まっている。 ・いじめ・暴力ゼロに向けた運動は、生徒会主導の活動として定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策はしながらも以前に近い形で活動ができるようになってきているので、3年間を見通したリーダーの育成、フォローの育成が図れるように再度見直しをしていく。 ・学級でも活発な話し合いができるように、リーダーの事前指導や担任の関わり方などを充実させていく。
生徒の規範意識の醸成	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始め、学期始めにおけるきまりや授業規律等の指導 ・生活場面における適切な指導 ・問題行動の早期発見・指導 ・教職員の指導体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりについては概ね守られているが、あいさつや時間遵守など少しルーズになってきている面もある。 職員側も意識をしていく必要があるが、同時に生徒に自分自身の生活を振り返らせていくことも必要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりやマナー面については、どの職員も同じようにその場で適切に指導できるようにしていく。 ・今年度後期になって、生徒会があいさつの取り組みを始めているが、それをもっと広げていけるようにする。
部活動の取り組み	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な目標の下での適切な指導 ・部長会を中心にした、生徒を主体とした取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、返事、礼儀、マナー、時間遵守、言葉遣い等については、部活動を通じてしっかり身につけさせるべく継続的に指導をしている。 ・上記の内容も含め、部活動の活性化を図れるよう、計画的に部長会でも話し合いをさせてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでもどのような場面でも、あいさつ、礼儀等の基本的な行動がしっかりできるように指導をしていく。 ・限られた時間の中で、目標をもって効率よく活動が進められるように指導をしていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校の教育活動については概ねご理解をいただいている。生徒がよりよく成長していったり、教員がそれぞれの持ち味を存分に出せたり、さらには負担を軽減できたりするように、PTAや学校運営協議会などでもっとできることを考えていきたいという、とても力強いことばもいただけた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

コロナ禍で様々な制約を受けていた活動が、少しずつ以前に近い形でできるようになってきた。しかし、一度停滞した活動を再び軌道にのせるには、活動の意義や指導の方策等、細かな部分でも職員の共通理解を図りながらやっていく必要がある。すべて以前の形にもどすのではなく、再度一つひとつの活動を見直しつつ精選する方向で考えていく。